

第一回「投資動向に関するアンケート」結果について

2009年7月9日



【目的】

このたび、外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、投資動向等に関するアンケート調査を始め、その結果の一部を外為どっとコム総合研究所が取りまとめ、定期的に対外公表することにいたしました。近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、国内外の市場参加者がその実像を把握、分析して理解を深めるのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を続けることで、時系列に見た当該投資家層の相場感の変化や、属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

【調査実施期間】

2009年6月16日(火)16:00～2009年6月23日(火)16:00

【調査対象】

外為どっとコムの『ネクスト総合口座』『FXトレード口座』のいずれか一方または両方に口座を開設のお客様。

【調査方法】

外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

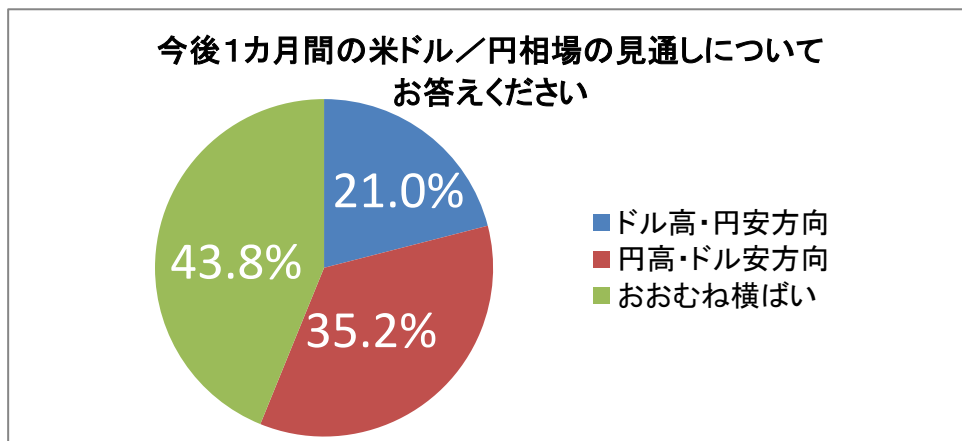
有効回答数 5,568 件

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」とした。

【第一回調査結果の略報】

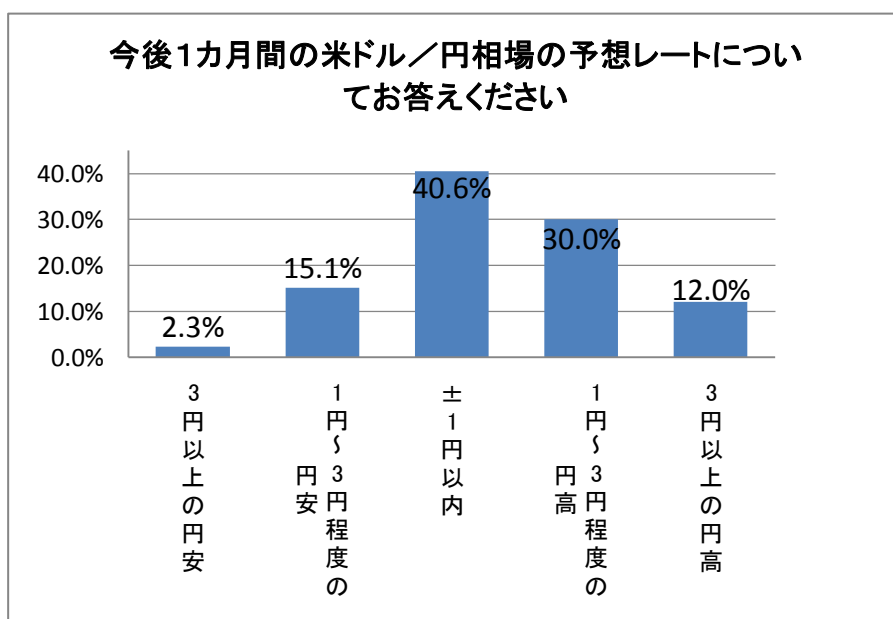
問1: 今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後一カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が 21.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が 35.2%と、円高予想の割合がドル高予想の割合を 14%ポイント上回っていた。ただし、「おおむね横ばい」と答えた割合が 43.8%と最も多く、調査期間において明確な方向感を持たない投資家の多さが浮き彫りになった。



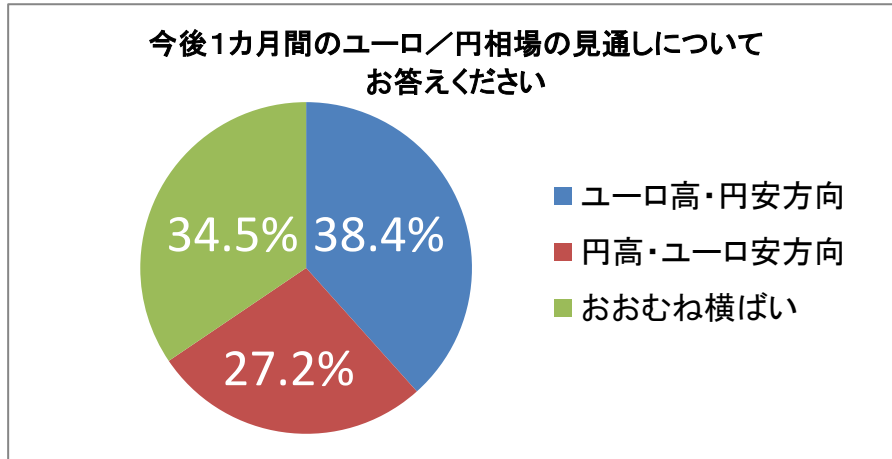
問2: 今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「±1円以内」と答えた割合が 40.6%と最も多く、「1円～3円程度の円高」予想が 30.0%、「1円～3円程度のドル高」予想が 15%、「3円以上の円高」が 12.0%、「3円以上のドル高」が 2.3%という順番になった。問1に示された回答結果とおおむね整合的な結果で、円高予想の割合が高いものの、極端な為替変動を予想する向きは相対的に少なく、横ばい予想が主流になっている。



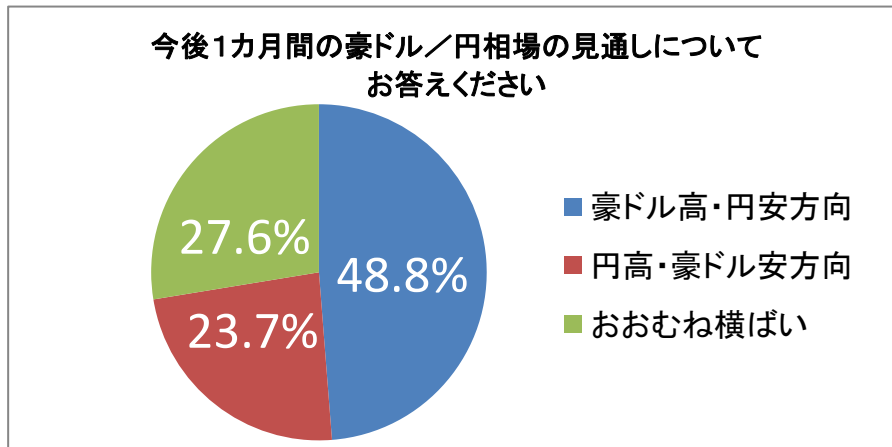
問3: 今後1カ月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

今後一カ月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が 38.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が 27.2%と、ユーロ高予想の割合が円高予想の割合を 11.2%ポイント上回っていた。「おおむね横ばい」と答えた割合は 34.5%となっている。ユーロ円相場においては、ユーロ高予想の割合が、僅差ではあるが最も高い。



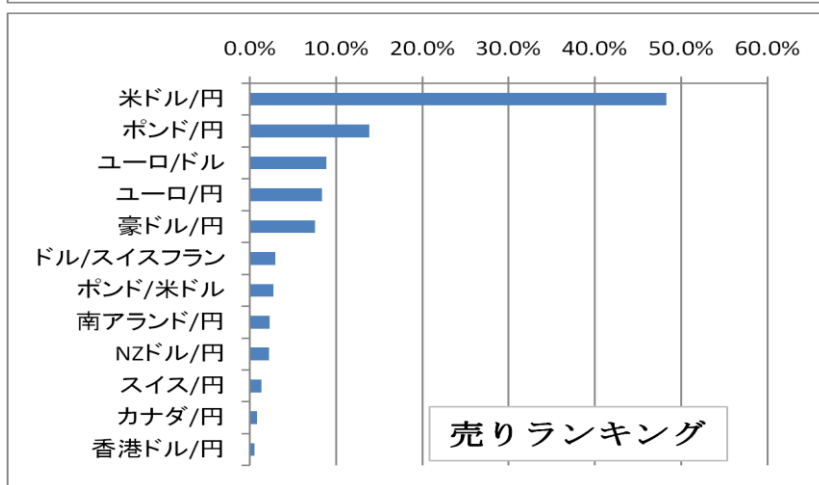
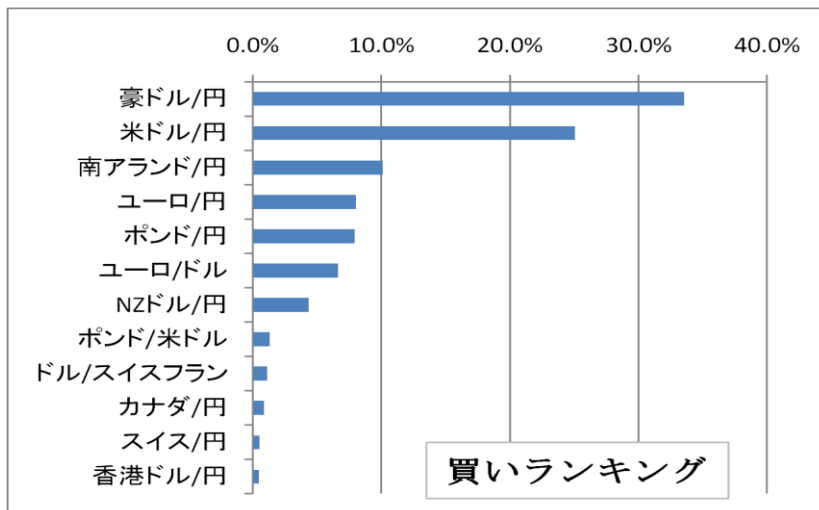
問4: 今後1カ月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後一カ月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が 48.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が 23.7%と、豪ドル高予想の割合が円高予想の割合を 25.1%ポイント上回っていた。「おおむね横ばい」と答えた割合は 27.6%となっている。豪ドル円相場においては、豪ドル高予想の割合が、他に大差をつけて最も高くなっている。



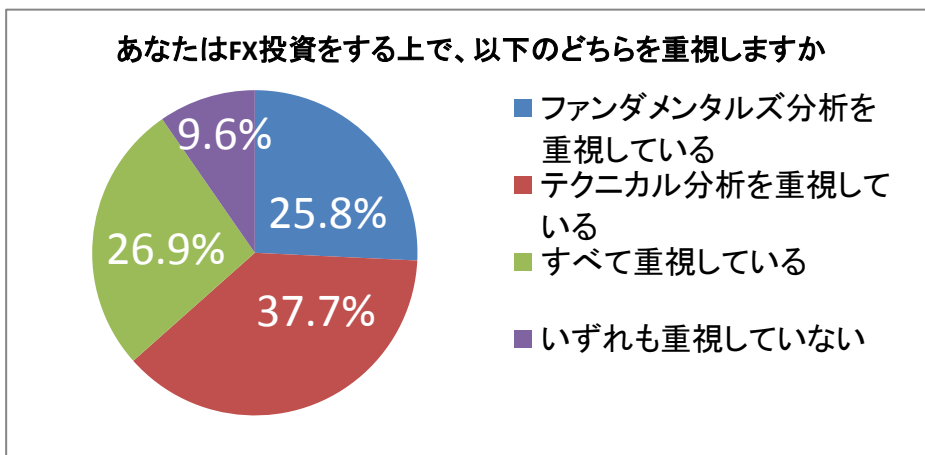
問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて質問したところ、「買い」で注目されている通貨ペアの順位は、1位豪ドル円(33.6%)、2位米ドル円(25.1%)、3位南アランド円(10.1%)、4位ユーロ円(8.0%)、5位ポンド円(7.9%)であった。一方「売り」で注目されている通貨ペアの順位は、1位が断トツでドル円(48.3%)となっており、その後に2位ポンド円(13.9%)、3位ユーロドル(8.9%)、4位ユーロ円(8.4%)、5位豪ドル円(7.6%)が続いている。



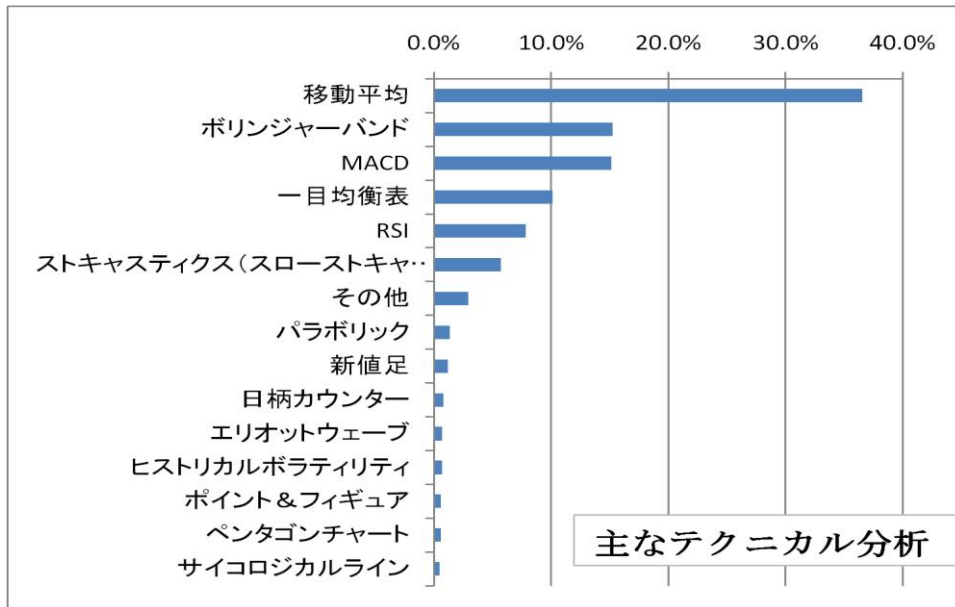
問 6:あなたは FX 投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が 25.8%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が 37.7%と、テクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が 26.9%、「どちらも重視していない」が 9.6%であった。



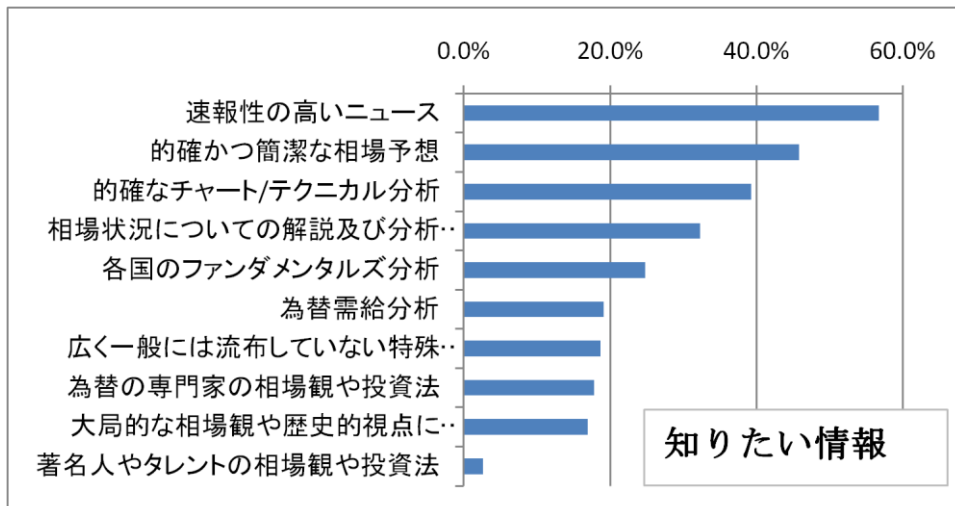
問 7:テクニカル分析では何を主に活用していますか？

「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(36.6%)」が最も高く、「ボリンジャーバンド(15.3%)」、「MACD(15.1%)」、「一目均衡表(10.1%)」、「RSI(7.8%)」、「ストキャスティクス(5.7%)」の順番で並んでいる。テクニカル分析の手法は、非常に数多く存在しているが、やはり比較的シンプルな移動平均を用いた分析が、FX投資家にとっては一番人気のようだ。



問 8:FX投資をする上で、最も知りたい情報は？

「FX投資をする上で最も知りたい情報」について複数回答で尋ねた結果、「速報性の高いニュース(56.7%)」と答えた割合が最も高く、以下、「的確かつ簡潔な相場予想(45.8%)」、「的確なチャート/テクニカル分析(39.3%)」、「相場情報についての解説及び分析レポート(32.3%)」、「各国のファンダメンタルズ分析(24.8%)」、「為替需給分析(19.2%)」、「広く一般には流布していない特殊情報(18.7%)」、「為替の専門家の相場感や投資手法(17.9%)」、「大局的な相場観や歴史的視点に基づく情報(16.9%)」と続いている。複数回答可能な形式で質問したことも一因だろうが、非常に幅広い情報提供を欲している個人投資家の姿が浮き彫りになっているといえるだろう。



【今後の調査実施計画及び公表方針】

今回は初回調査という性質上、統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な時系列比較を提示することができず、簡単な結果報告のみを公表するという形になりましたが、今後、毎月実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などについても、公表内容を拡充する予定です。また、今回公表している質問及び回答結果以外にも、本調査においては、投資家の属性や投資選好を把握する目的の質問項目を設け、その結果も非公表扱いで集計いたしております。それらの回答結果も活用した、投資家の属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回公表する予定の「外為白書(仮称)」で紹介することを予定しております。